

深井志道軒
三
景信傳

へ13
3059



大眼宣徳平頼

志



播磨
安宿
判官友春
柳葉怨霊
種々の妖怪と
あつて

縮土佐藤原行秀之
百鬼夜行繪巻
物置



文化五年
戊辰七月
稿了
同六年
巳巳正月
発行

山東京傳作



自序
いひのころも世
増志のころのこも
志道軒うかうやくの
ついでにのりしとをま
ある老人ききしにうさ
さめ志道軒が著述よえ
草のり小冊あれこれと續り
きとあつてひめあきりあ
かりをてすよえせむむ
るはそつとくもあゆむ
軒のりしとくもあゆむ
これとたよと備飾して
きぬこれ志道軒むう
まらゆあんまり

衝脉圖

衝脉為五臟六腑經脉血海與任脉風起於少腹之內胞中其浮升者起於氣衝並二經之間循腹行與腎經並挾臍旁



狂雲 禪師 百壁 連磨 詩



身の丈 六尺三寸 重サ 四十一貫目 鬼の首の 衣服と着る 半兵衛とも 大仏の膝うづひん 花の雪半角

浪華俠客 公時半兵衛

志



善惡到頭終有報







まろきをかきとわのまよ
つれていしとこのいしつり
とどろきとてんあれや
れんしつりあち
まろきをかき
まろきをかき

のいしとわのまよ
つれていしとこのいしつり
とどろきとてんあれや
れんしつりあち
まろきをかき
まろきをかき



まろきをかきとわのまよ
つれていしとこのいしつり
とどろきとてんあれや
れんしつりあち
まろきをかき
まろきをかき

まろきをかきとわのまよ
つれていしとこのいしつり
とどろきとてんあれや
れんしつりあち
まろきをかき
まろきをかき

後編上冊







つるの
つるの
つるの
つるの
つるの

つるの
つるの
つるの
つるの
つるの

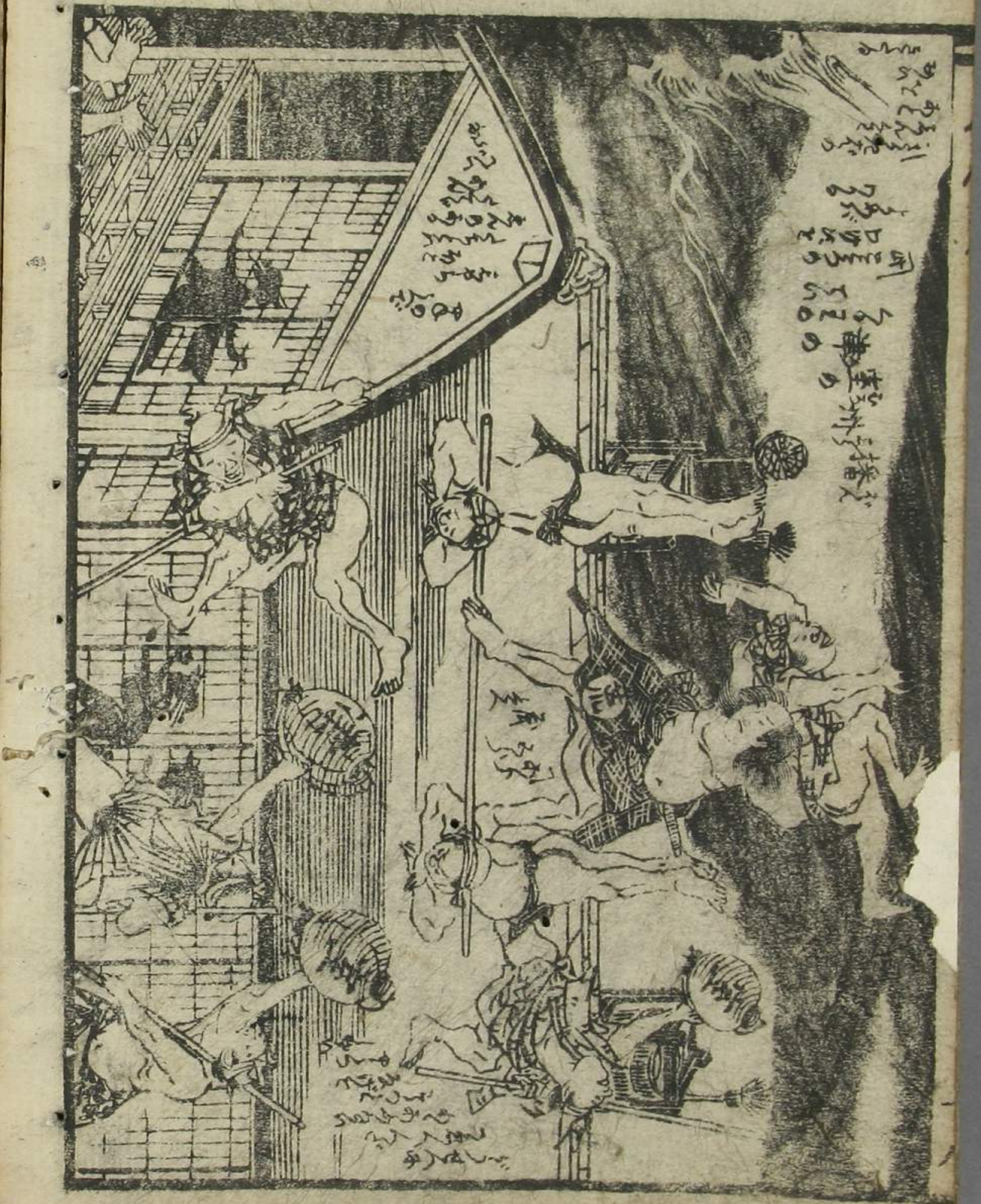
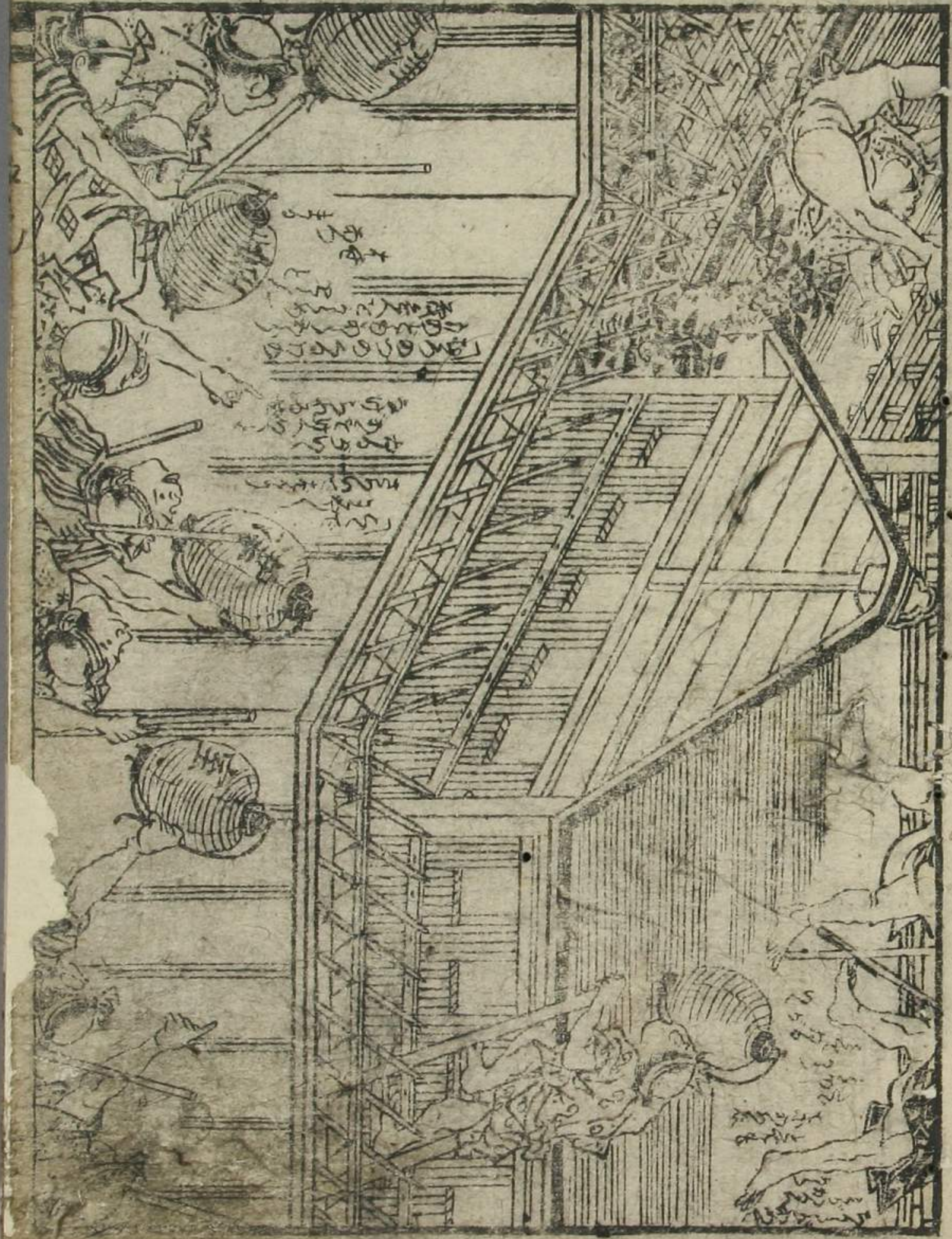
つるの
つるの
つるの
つるの
つるの

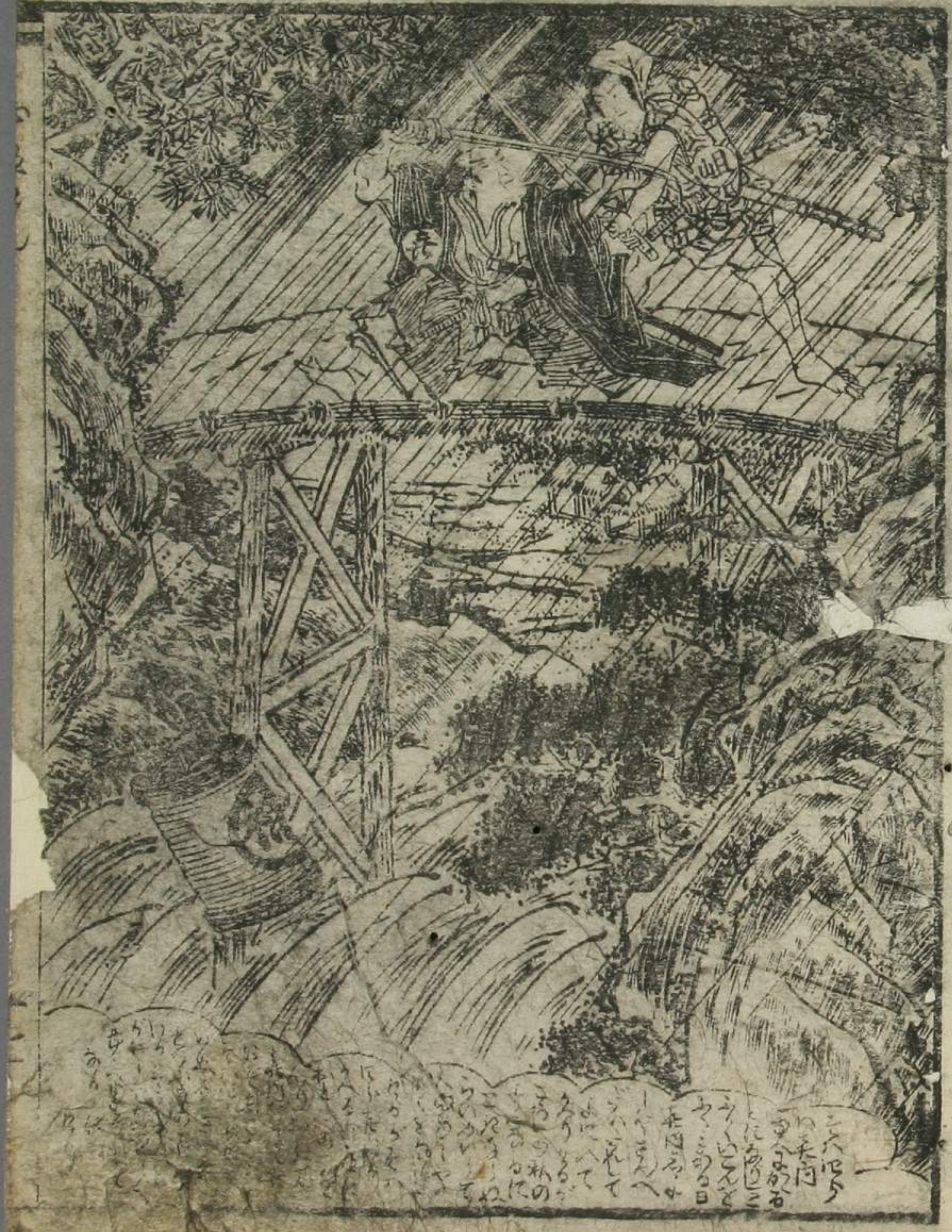


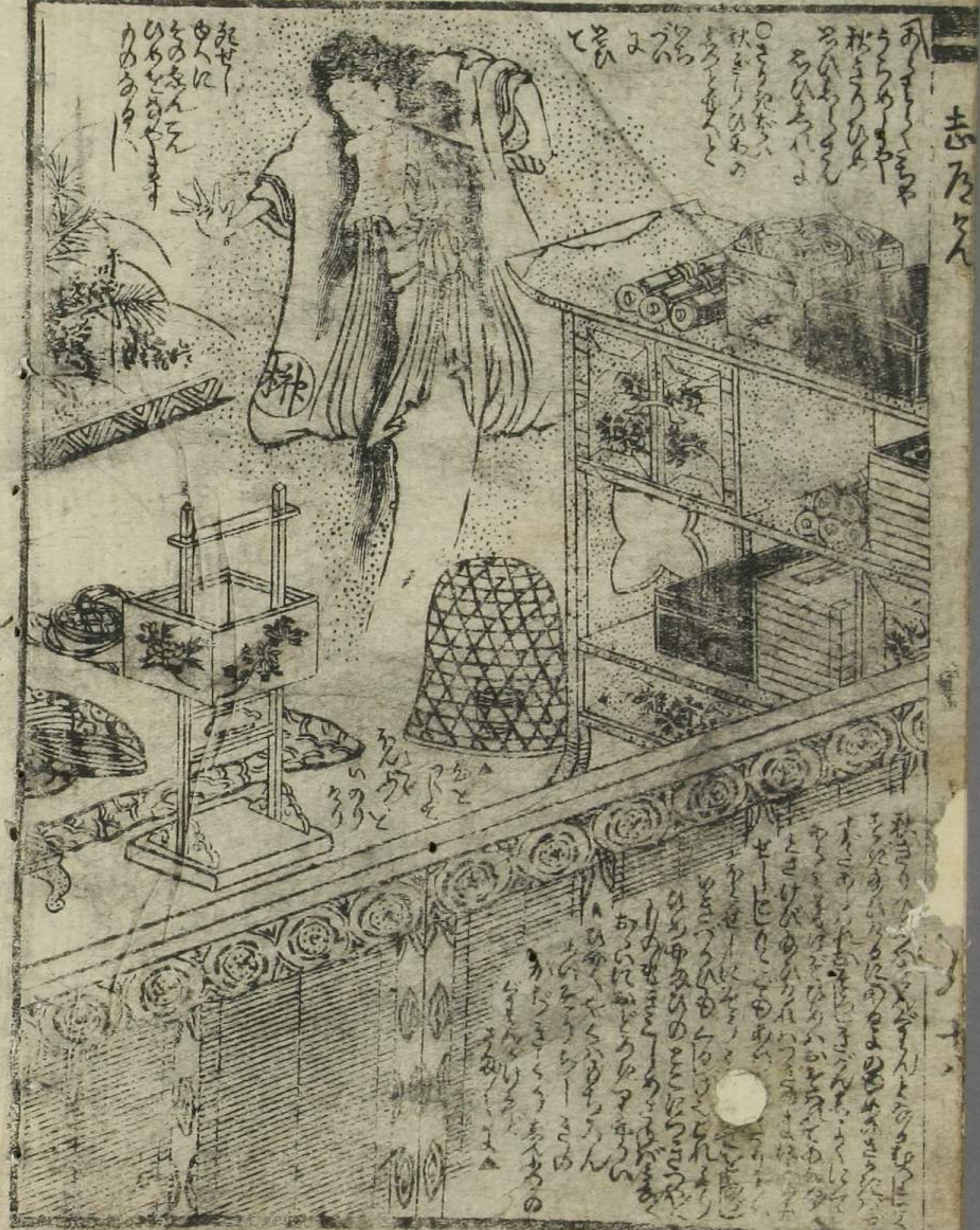
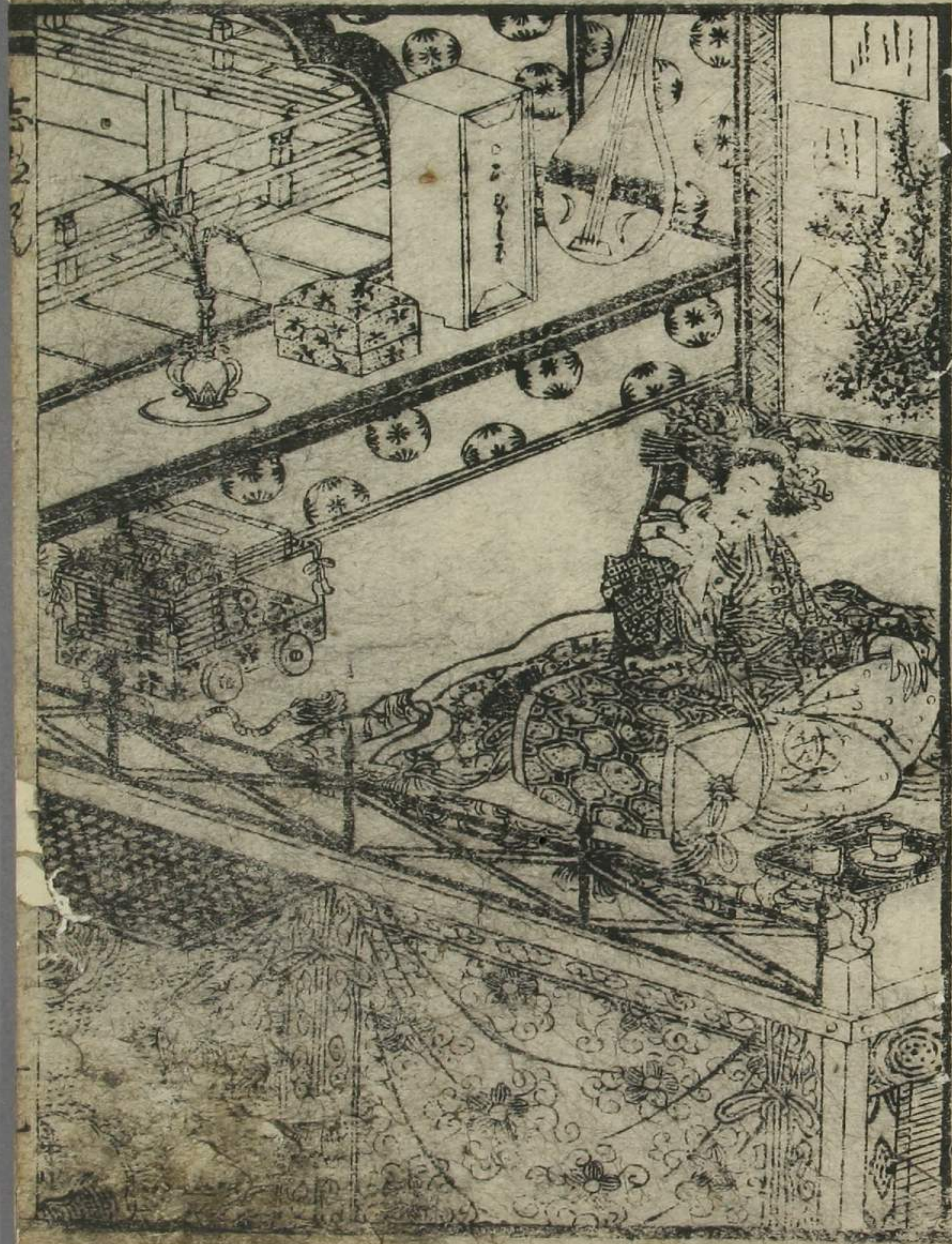
つるの
つるの
つるの
つるの
つるの

つるの
つるの
つるの
つるの
つるの

つるの
つるの
つるの
つるの
つるの







志乃乃
 志乃乃
 志乃乃
 志乃乃

志乃乃
 志乃乃
 志乃乃
 志乃乃







あつて三世の...
目...
あつて三世の...
目...
あつて三世の...
目...

あつて三世の...
目...
あつて三世の...
目...



あつて三世の...
目...
あつて三世の...
目...

あつて三世の...
目...
あつて三世の...
目...

大いそぎのけしき



